

広報委員会
(第 24 期 第 5 回)
議 事 要 旨

1. 日 時 平成 30 年 4 月 3 日 (水) 10:00～12:00
2. 会 場 日本学術会議 5 階 5-A (1) 大会議室
3. 出席者 渡辺委員長、大倉幹事、荒川委員、所委員、渡辺 (芳) 委員、辻委員、橋田委員、松宮委員、山川委員
(ビデオ) 隠岐委員、福永委員
4. 配布資料
資料 1 広報委員会 委員名簿
資料 2 前回議事要旨
資料 3 外部有識者からの意見について

5. 議 事

(1) 各分科会の進捗報告と課題

【学術の動向分科会】

分科会委員長の伊藤委員が欠席のため、事務局から伊藤委員の「分科会は3か月に1回開催し、順調に編集と刊行が続いている。東日本大震災と福島第一原子力発電所事故以後の課題についての特集などの重要課題について、学術分野から議論をさらに進める企画なども準備中である。」との報告を代読した。

山川委員、大倉委員から、福島第一原子力発電所事故以後の課題についての特集について経緯の補足があった。本特集については、日本学術会議全体での議論の整合性をとるため、分科会での議論の結果を、渡辺委員長に報告することとなった。

【ホームページ編集分科会】

分科会委員長の三成委員が欠席のため、事務局から状況を報告した。当分科会については、ホームページの前ページのスマホ対応を含む大幅なリニューアルを検討することとしていたが、今年度の予算がつかず、現在の予算の範囲内でのリニューアルを今後検討することとしている。

【国際発信推進分科会】

前回 10 月の広報委員会以降、分科会を開催しておらず状況は変わっていない。今期は英語版パンフレットを改善したが、今後はホームページについて検討していく予定。

(2) 外部評価委員会での課題

渡辺委員長から資料3の「外部有識者からの意見」（日本学術会議第24期1年目（平成29年10月～平成30年9月）の活動状況に関する評価の広報部分抜粋）について説明後、意見交換を行った。

【ホームページについて】

○ 前半の「市民や外国人を含めたより多くの方々に、日本学術会議が発出する提言等を読んでもらうために、もう少し工夫ができるのではないか。表題や要旨の日英併記や、要旨の簡略化、現状ではPDFファイルのみとなっている要旨のHTML化等が、工夫の例として考えられる。」との指摘については、委員から以下の意見があった。

- ・ 提言などはwordファイルで作成されており、すべてHTML化は現実的ではない。
(事務局から、提言のポイントのみであれば、現在の人員体制でも対応可能と補足した)
- ・ PDFはページ内の回遊性がないので、提言ポイントだけでもHTML化するのはいいと思う。
- ・ トップニュースにポイントと本文の両方に入れるようにしたほうがいい。
- ・ ポイントが2ページは少し長い。一般の方に読んでもらうためには、提言の内容に関する分かりやすいリード文が必要ではないか。それを読んで、ポイントを読むか、本文を読むか判断ができる。
- ・ 「市民や外国人を含めたより多くの方々に」とあるが、予算や人員等の資源がない中で、どこまで労力を割くのか、すべてカバーすることは難しい。逆に情報量が多く見づらくなってしまう。一般の方向けの別ページをつくることは、ひとつの案だと思う。
- ・ 英語版ホームページにもリード文があるといい。提言チェックシートで英語のアブストラクトを書いて頂いた場合は、それを英語版ホームページに掲載してはどうか。本文は日本語でいいのではないか。
- ・ 科学と社会委員会市民との対話分科会はサイエンスカフェを主に審議しているが、元々のミッションは市民との対話をどうするかということ。ホームページ、SNSで市民向けに何をしたらいいかを検討してもらってはどうか。SNSから、信頼度の高いホームページへ誘導するなどの手法もある。

- ・ ホームページに関しては、編集長のような役割をする人が必要で、決定したこと等の様々な情報を取捨選択してどんどんニュース書いて掲載するというやり方がいいのではないか。常勤でなくてもいいが、そういう人がいないとコンテンツをつくっても一過性で終わってしまい、メンテナンスができない。学術調査員を採用してそういった役割を担ってもらうことはできないか。（事務局で確認）

【SNS について】

- 後半の「また、イベントについては、Facebook や Twitter 等の SNS を活用した告知や、ホームページへの掲載の工夫によって、市民の方々の参加がより得やすくなるのではないか。」との指摘については、事務局から日本学術会議 Twitter の現行の運用と、対応可能と思われる変更案について説明し、意見交換を行った。

（以下、事務局からの現行の運用・変更案の説明）

【現行】

基本的にシンポジウムの案内に限定されており、ニュースメールに掲載したもの、依頼があったものについてのみ発信している。

【変更案】

- すべてのシンポジウムについてホームページに掲載した週にツイートする。（週に2～3程度のツイートとなる見込み）
- 提言・報告等についても公表と同時にツイートし、内閣府 Twitter にもリツイート依頼する。→ツイートの拡散及びフォロワーの増加をねらう。

（委員からの意見については、以下の通り）

- ・ 提言についてもツイートするのはいいと思う。内容についてのリード文が Twitter でもあるといい。
- ・ Twitter のアイコンがの位置がページ下方にあるので気づきにくい。右上のほうにあると分かりやすいのではないか。
- ・ 日本学術会議の会員も知らないなので、総会の機会にPRしてはどうか。

【今後の対応について】

- ホームページ、SNS については、意見交換の結果を踏まえ、以下の通り対応することとなった。
- ① 提言のポイントについては、事務局内での準備が整い次第 HTML 化し、トップニュースにも本文と合わせて掲載する。
- ② ホームページにおいて、Twitter のロゴを上位部分に移動する。また、このことを渡辺委員長から総会時の副会長報告にて報告する。
- ③ ホームページ、Twitter に掲載する提言・報告等のリード文作成については、渡辺委員長が科学と社会委員会において検討することとなった。
- ④ 英語版ホームページでの提言の取り扱い（どのように掲載していくか、見せ方等）については、国際発信推進分科会で今後検討することとなった。
- ⑤ ホームページ、SNS で市民向けに何をしたらいいのかという点については、科学と社会委員会市民との対話分科会での検討を依頼することとなった。（ホームページの「おもしろ情報館」の活用も含めて）
当分科会委員でもある所委員から、分科会委員長の遠藤先生に相談することとした。
- ⑥ ホームページについては、デザインに造詣の深い先生の意見を取り入れたほうがいいという渡辺委員長からの提案について委員も了承した。委員として追加するか、アドバイザーの形で参加していただくか、渡辺委員長に一任された。

(3) その他

- ・ 次回の広報委員会は 10 月総会 1 日目（10 月 16 日予定）の昼休みに開催することとされた。